




論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第759号	氏名	中島悠史郎
学位審査委員	主査	柳原克紀	
	副査	西田教行	
	副査	福岡順也	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p><i>Helicobacter pylori</i> は胃粘膜上皮に感染し、粘膜層への好中球や単核球の浸潤により慢性胃炎を発症させるが、その機序は解明されていない。CXCL13はCXCサブタイプの一つであり、慢性炎症疾患と関連することが報告されている。</p> <p>本研究では、CXCL13の発現を検討して慢性胃炎との関連性を調べており、目的は妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>2006年6月から2009年12月の期間中に内視鏡検査が施行されたdyspepsiaを呈する外来患者を対象とした。内視鏡下に胃前庭部より5か所の生検を行い、2つは凍結切片としてCXCL13量の測定を、2つは凍結切片としてCXCL13mRNA定量を、1つはパラフィン固定後、病理組織学的ならびに免疫組織学的解析を実施しており、研究手法は妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p><i>H.pylori</i> 感染によりヒト胃粘膜内におけるCXCL13の合成・分泌が促進されているものと考えられた。CXCL13の受容体CXCR5がリンパ濾胞のB細胞に発現しており、CXCL13/CXCR5を介した慢性炎症細胞浸潤が<i>H.pylori</i> 関連胃炎の病態に関与していることが示唆された。</p> <p>以上のように本論文は消化器疾患の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			

(注) 報告番号は記入しないこと